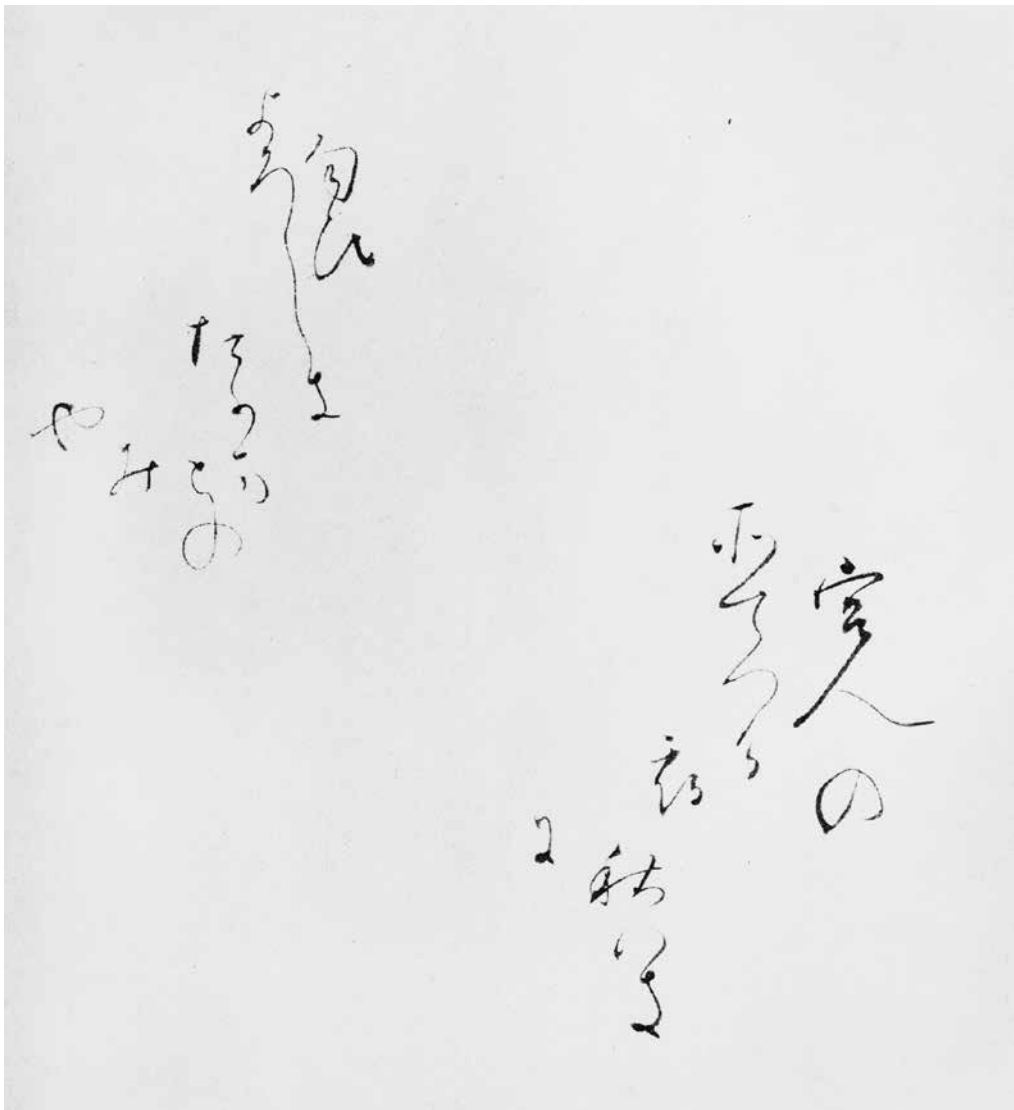


規定課題

(会友・準会友) 月例課題
(八段〜六段) 昇格・昇段課題

(原寸)



※左の『とよのとし』の「宮人の」から「とのみや」までをペンで臨書しなさい。※用紙はよこにして使用すること。

〈原文〉

みやびと
宮人の
所てつ介
衣
秋八支
爾

〈読み〉

みやびと
宮人の袖付け衣
秋萩にほひ宜しき
高円の宮

句ひ
よろし支
た可万
との
み
や

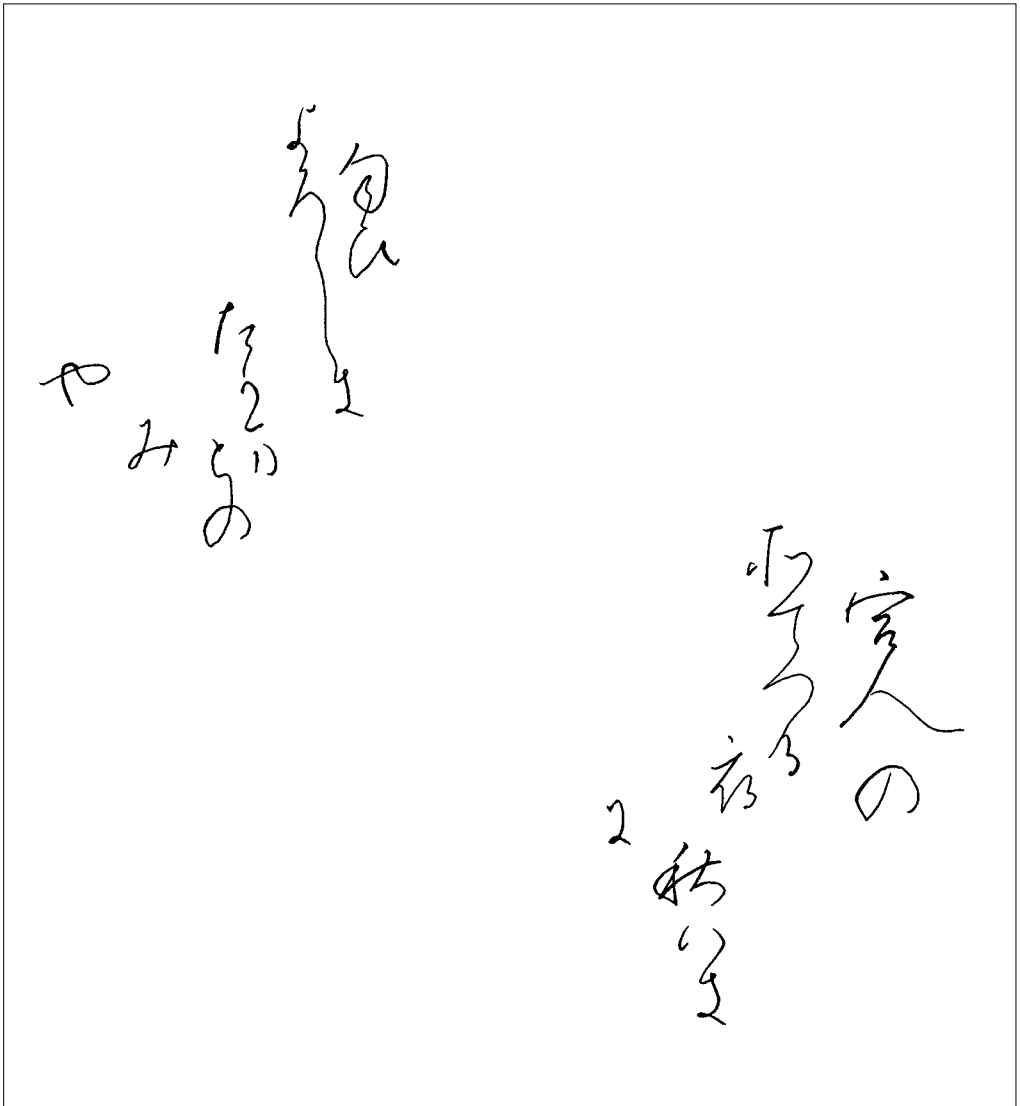
〈大意〉

大宮人の袖付け衣が秋萩色に照り映えて
美しい高円の離宮であることよ。

(参考手本は次ページ)

〈出典〉

尾上柴舟(二八七六年〜一九五七年)
『とよのとし』より
万葉集卷第二十 四三二五

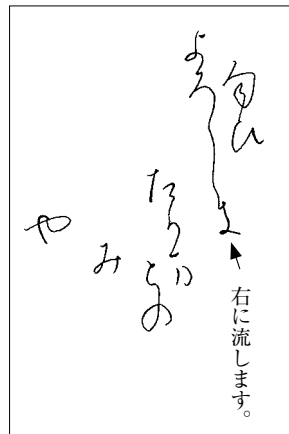


宮田 須美子 臨

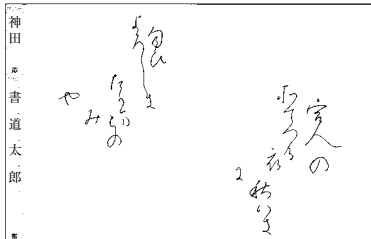
(つけペン)

〈解説〉

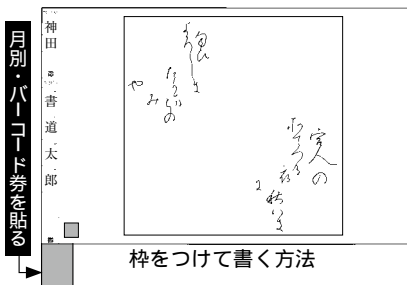
○書き始めを下に、後半を上にと散らし書きになっていきます。それぞれが長くなりすぎないようにまじめましよう。



用紙の使い方



枠なしで書く方法



枠をつけて書く方法

用具 つけペン、万年筆またはデスクペン（ボールペンは不可）、インクは黒色 用紙 ペンの力用紙A型（B型も可）

※バーコード出品券と月別出品券(A)の2枚を貼って出品してください。

◆次号課題予告◆大唐三蔵聖教序 太宗文皇帝製 蓋聞二儀有象顯 覆載以含生四時
(課題は変更することがあります。)

専攻コース

規定課題

(五段〜初段II昇段課題)

※左の手本を参考に、自分の書きぶりで書きなさい。

加藤 玲子 書

(つけペン)

〈読み〉

ながく庄内平野を転々としながらも、わたしはその裏ともいへば、肘折の溪谷にわけ入るまで、月山がなぜ月の山と呼ばれるかを知りませんでした。

〈出典〉

森 敦『月山』

〈解説〉

文中の溪の最後は天でなくて夫で、横画からつき出ること。間違いやすいですから注意しましょう。旧字体は内・轉・溪になります。

※バーコード出品券と月別出品券④の2枚を貼って出品してください。

ながく庄内平野を転々としながらも、
わたしはその裏ともいへば、肘折の
溪谷にわけ入るまで、月山がなぜ月の
山と呼ばれるかを知りませんでした。

旧字体	筆写体
内	
轉	轉
溪	

用具 つけペン、万年筆またはデスクペン（ボールペンは不可）、インクは黒色
用紙 ペンの力用紙A型（B型も可）

◆次号課題予告◆

小樽の港のまわりを三方から取り巻いている山々の雑木の葉は、十月の末ころ、寒い夜が一夜二夜すぎると鮮明な赤と黄に変わった。

(課題は変更することがあります。)

専攻コース

規定課題

(1級 || 昇段課題 || 2級 ~ 5級 || 月例課題)

※左の手本を参考に、自分の書きぶりで書きなさい。

福原 溪 春 書

(つけペン)

秋来ぬと目にはさわ

かに見えぬども風の

音にぞ驚かれぬる

〈大意〉

秋が来たと目にははっきり見えないけれど、耳に聞く風の音には、さわやかにそれと感じられる。

〈解説〉

漢字は、かなよりも大きく書きます。中心を通し、筆脈に留意して伸びやかに書いてください。

用具

つけペン、万年筆またはデスクペン（ボールペンは不可）、インクは黒色

用紙

ペンの力用紙G型
※バーコード出品券と月別出品券④の2枚を貼って出品してください。

〈解説〉

〈いろいろな書きぶり〉

風 風 風 風 驚 驚 驚 音 音 音

馬 上

〈連綿の注意点〉

※次の一画まで力をぬかず続ける
止まらない
止まる
なめらかに
右よりに

◆次号課題予告◆ 馬追虫の髭のそよるに來る秋はまなこを閉じて想ひ見るべし (課題は変更することがあります。)

※左の手本を参考に、自分の書きぶりで書きなさい。

小島 鳳 洽 書

(デスクペン)

原文 悠然見南山 意與秋氣高
読み 悠然として南山を見る 意秋氣と高し
作者 蘇軾(一〇三七〜一一〇二)

大意 悠然として南山を望見する、その人柄は秋
気の如く清くして高い。

解説 今月は五字句を二行に配しました。(結
体の似ている字が横に並ぶことを避け
ました。)天地、左右に余白をつけて書
きましよう。

ペン先の弾力と指先の動きをしなやかに
にすることが大切です。

遅速はつけますが、楷行どちらもなる
べくゆつくり丁寧に運筆しましょう。

用具 万年筆またはデスクペン(ボールペンは不
可)、インクは黒色

用紙 べんの力用紙G型

※バーコード出品券と月別出品券④の2枚を貼って
出品してください。



〈解説〉

点画の分間に注意
(細部の○印は省略)



◆次号課題予告◆ 荒城秋草満 古樹野藤垂 (課題は変更することがあります。)

基礎コース

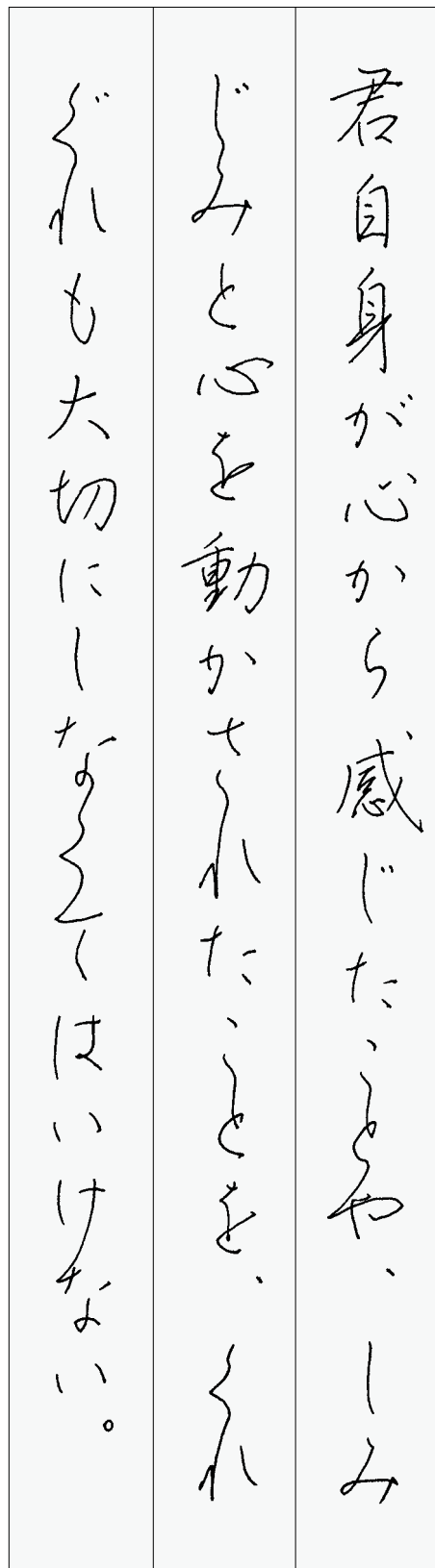
規定課題

(五段〜初段II昇段課題)

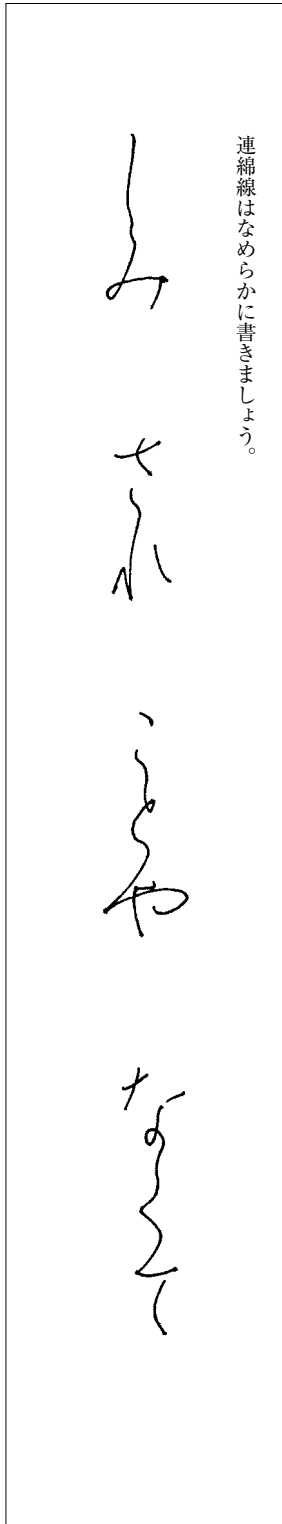
※左の手本を参考に、自分の書きぶりで書きなさい。

宮田 須美子 書

(デスクペン)



〈解説〉



連綿線はなめらかに書きましょう。

〈読み〉 君自身が心から感じたことや、しみじみと心を動かされたことを、くれぐれも大切にしないでいけません。

〈出典〉 吉野源三郎『君たちはどう生きるか』

〈解説〉 ひら仮名が多いので二字・三字連綿で書きました。方向を定めて急ぎすぎないように書きましょう。

用具 つけペン、万年筆またはデスクペン、ボールペンも可 インクは黒色
用紙 ペンの力用紙3行書き

※バーコード出品券と月別出品券④の2枚を貼って出品してください。

◆次号課題予告◆ 智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい。(課題は変更することがあります。)

基礎コース

規定課題

(1級〜5級昇段課題)
(2級〜5級月例課題)

※下の手本を参考に、自分の書きぶりで書きなさい。

加藤玲子書 (デスタクペン)

住み慣れれば、どんな所でも自分の
住んでいゝ所が一番よい。

↑ここに貼る↑
月別・バーコード券

<p>点をつなぐ 住み慣れれば、どんな所でも自分</p>	<p>丸くしない あける</p>
<p>最後の画をつなぐ やわらかにつなぐ</p>	<p>とめる</p>

〈読み〉 住み慣れれば、どんな所でも自分の住んでいゝ所が一番よい。 〈出典〉 『故事ことわざ・慣用句辞典』(ことわざ 住めば都)
〈解説〉 漢字はひらがなよりやや大きく、背の高さもそれぞれ不揃いにならないようまとめましょう。

※バーコード出品券と月別出品券④の2枚を貼って出品してください。

用具 つけペン、万年筆またはデスタクペン、ボールペンも可 インクは黒色 用紙 ペンの力用紙2行書き

◆次号課題予告◆ あることに夢中になっていると他を顧みず道理を失う。(課題は変更することがあります。)

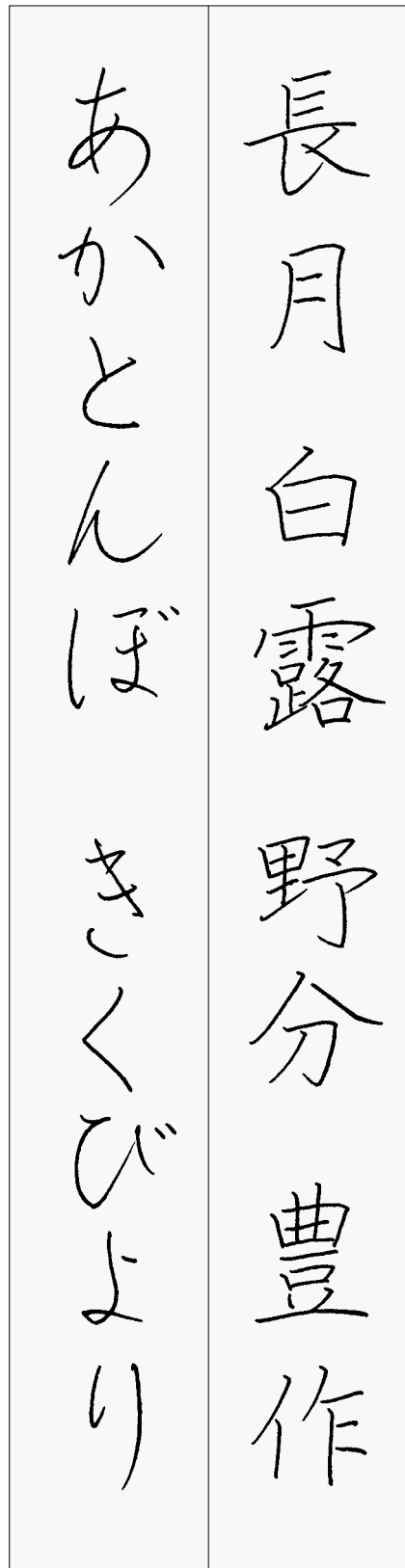
基礎コース

規定課題

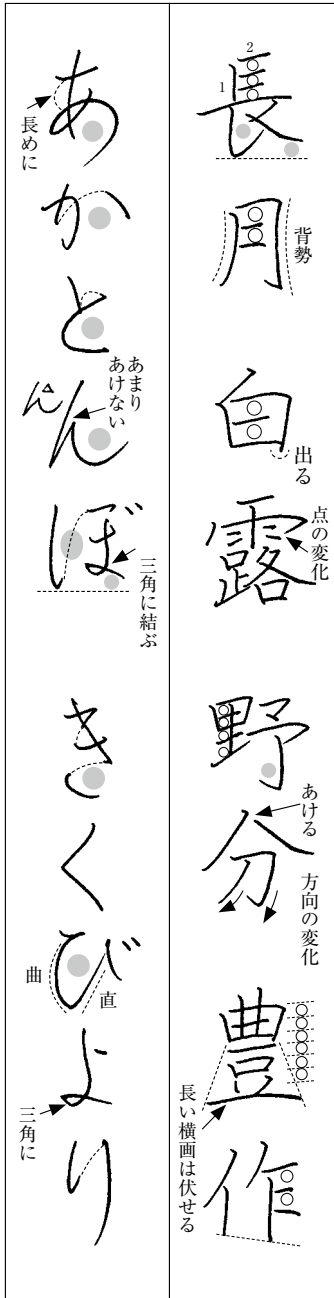
(6級〜10級)

※左の手本を参考に、自分の書きぶりで書きなさい。

福原 溪 春書 (つけペン)



〈解説〉



〈読み〉

ながつき はくろ のわき ほうさく
長月白露野分豊作 あかとんぼ きくびより

〈出典〉

『最新 俳句歳時記』

〈解説〉

「長月」：陰曆九月の異称。「白露」：二十四節気の一つ。白く露の結び始める頃で、九月七日頃。「野分」：秋の暴風で、野の草を吹き分ける意。主として台風のこと。「菊日和」：秋、菊の花が咲く頃の好天気。※ペンを大きく動かし、伸びやかに書きましょう。

用具

つけペン、万年筆またはデスクペン、
ボールペンも可 インクは黒色

用紙

ペンの力用紙2行書き

※バーコード出品券と月別出品券(A)の2枚を貼って出品してください。

◆次号課題予告◆ 神無月 刈田 新蕎麦 きりたんぼ うんどうかい (課題は変更することがあります。)

想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
 得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜
 多是大神呪是大明呪是无上呪是无等等
 呪能除一切苦真實不虛故說般若波羅蜜
 多呪即說呪曰
 揭諦揭諦 波羅揭諦 波羅僧揭諦 菩提薩婆訶
 般若心經
 奉為二百萬卷寫經發願成就
 為 (お願いごとをお書きください)
 (住所をお書きください)
 (お名前をお書きください) 謹寫

※ 名 宛ててお写経を二に写経事。におりください。
 めて納経される方は「お写経を二に写経事。におりください。」
 の作 用させていただきますので、ご力下さい。

住所	納経者氏名	ふりがな
〒 □□□□ □□□□		
電話番号 () () () () () ()	雅号	ふりがな

納経連絡用紙

公益財団法人日本書道教育学会
 二百萬卷写経実践推進委員会事務局

きりとり

■用紙 「般若心経」、「延命十句観音経」用紙は三多軒で用意してあります。

*注文先…三多軒 (FAX03-32339-8273、03-32265-5493)

■用具 つけペン、または スペン、ーペン、ン は

■送り先 〒101-8358 東京都千代田区西神田二丁目三 公益財団法人日本書道教育学会「写経事務局」宛 (は赤で)

*写経作品は他の月例競書とは別にして下さい。

□納経について

納経をご の方は一巻につき五〇〇 を 振替で の、「振替 明書」を写経作品に てお送り下さい。

□お問い合わせ ☎03-3234-3919

□振替 号 〇〇一七〇一〇五四二三 (財)日本書道教育学会 写経事務局 (までの振 用紙 着用 です)

*写経専用振替用紙は 用 (大 122.35) に住 を し、 2 手を貼 して写経事務局 までご ください。

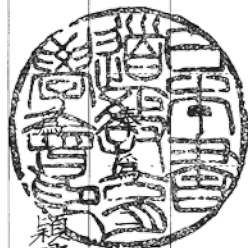
随意課題

写経研究室 基礎・専攻コース（全員）

左の「延命十句観音経」か前ページの「般若心経」のどちらかを選んで清書し出品してください。

草薙北望先生書

延命十句観音経
 観世音南無佛与佛有因与佛
 有縁佛法僧縁常楽我浄朝念
 観世音暮念観世音念念従心
 起念念不離心



百萬卷寫經發願成就

穎興院殿犀水啓道大居士靈位證大菩提也

住所 東京都千代田区西神田二ノ二二三

氏名 山本太郎敬寫

※納経のしかた、用紙用具については前ページと同じです。

※バーコード出品券と月別出品券②の2枚を貼って出品してください。

〈読み〉

延命十句観音経

観世音 南無佛 与佛有因 与佛有縁

佛法僧縁 常楽我浄

朝念観世音 暮念観世音 念念従心起

念念不離心

〈大意〉

観世音 仏に南無したてまつる 仏と因あり 仏と縁あり 仏と法と僧との縁によつて 常・楽・我・浄の四徳を得ん

朝な朝なに観世音を念じ夕な夕なに観世音を念じ 念々、心より起こり 念々、心を離れず。

念々、心を離れず。